

2年A組 国語科 単元設計・学習指導案

指導者 兵頭 宣彦

1 日時（場所） 12月7日（火）9：05～9：55（2年A組教室）

2 単元設計（単元名：文学的文章を読み深めよう（第2学年 C読むこと））

(1) 本単元で育成したい自立と共生の力

○物事を多様な観点から捉え、問題の本質を見抜く力

○自分の気持ちや考えを表現し、伝える力

○多様な価値観を認める力

(2) 単元目標

○登場人物の心情が表れた語句や描写、語り手の語り方に注意して読み、それらの語句や表現を発表や文章の中で使うことで語感を磨き、語彙を豊かにすることができる。〔知識及び技能〕(1)エ

○観点を明確にして文学的文章を読み、文章の構成や表現の効果について考えることができる。

〔思考力、判断力、表現力等〕C読むこと(1)エ

○言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を生活に役立て、我が国の言語文化を大切にして、思いや考えを伝えようとする。
「学びに向かう力、人間性等」

(3) 重点目標

＜本質的な問い＞

文学的文章を読み深めるためには、どうすれば良いか。

＜永続的な理解＞

文学的文章は、作者によって登場人物や場面、語り手などが設定され、創作された文章である。しかし、一度作者の手を離れた文学的文章は、読み手のものとなる。読むという行為は、言葉や比喩表現、さらには行間から感じられるものを、読み手が自分の生活体験や読書経験と結び付けて意味を見出すことができる。

本来個人的な営みであるはずの「読むこと」を教室で行うことで、読みは変容し、深化していく。友達の読みや教師の働きかけをきっかけに、新たな視点を得ることができたり、より深く文学的文章を捉えることができるようになったりする。その中で、登場人物や場面、語り手の設定の仕方、登場人物の言動の意味、語り口や描写の効果、読みを伝え合うことの意味などに気付くことが大切である。

(4) 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
登場人物の心情が表れた語句や描写、語り手の語り方に注意して読み、それらの語句や表現を発表や文章の中で使うことで語感を磨き、語彙を豊かにできている。 (1)エ	観点を明確にして文学的文章を読み、文章の構成や表現の効果について、自分の考えを持っている。 (C(1)エ)	学習課題に沿って、文学的文章の魅力や、その魅力を支える表現・構成の良さを味わい、文学的文章を読み深める方法について自分の考えを持ち、それを伝えようとしている。

(5) 評価の方法

パフォーマンス課題	その他の評価方法
図書委員会が、今月の図書館便りの原稿を募集しています。テーマは、「読書に苦手意識を持つあなたへー私が提案する文学作品を読み深めるポイントー」です。「走れメロス」の単元での学びを基に、原稿を作成しましょう。	○課題を追究する様子の観察 ○ワークシートへの記述

＜パフォーマンス課題の予備的ルーブリック＞

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
A	「走れメロス」の単元で学んだ語句の使い方や表現の仕方を参考に、読み手を意識して、図書館便りの原稿を書いている。	「走れメロス」の単元で学んだことを自分の知識や経験と結び付けた上で、三角ロジックを用いて図書館便りの原稿を書いている。	「走れメロス」の魅力や、その魅力を支える表現・構成の良さについて読み取った経験を振り返り、日頃の読書への生かし方を伝えようとしている。
B	「走れメロス」の単元で学んだ語句の使い方や表現の仕方を参考に、図書館便りの原稿を書いている。	図書館便りの原稿を書く際、「主張」「根拠となる事実」「理由づけ」の三角ロジックを使っている。	「走れメロス」の単元で学んだことを振り返り、日頃の読書への生かし方を伝えようとしている。
C	図書館便りの原稿を書く際、「走れメロス」の単元で学んだ語句の使い方や表現の仕方を参考にできていない。	図書館便りの原稿を書く際、「主張」「根拠となる事実」「理由づけ」の三角ロジックを使うことができていない。	「走れメロス」の単元で学んだことと日頃の読書への生かし方をつなげられていない。

(6) 指導計画（全 6 時間）

時間	ねらい・学習内容	重点	記録	評価規準（評価方法）
1	学習の見通しを持つ ・パフォーマンス課題を知り，単元の見通しを持つ。 ・「走れメロス」と出会い，初読後の感想や疑問をまとめる。	思 態		・単元の学習を通して，どのような資質・能力を高めるのか理解することができている。（「学びの足跡」） ・「走れメロス」を読み，登場人物の言動や情景描写について，興味を持ったことや疑問に感じたことを書くことができている。（「学びの足跡」）
2 3 4 5 本時	「走れメロス」を読み深める ・自分で〈分析の視点〉を立て，「走れメロス」を読み直す。（個人） ・〈分析の視点〉を基に，読み深めた内容を発表する。（全体） ・感想を交流する。（全体）	知 思 態		・「走れメロス」の登場人物や場面，語り手の設定の仕方，登場人物の言動の意味，語り口や描写の効果について分析することができている。（分析シート） ・〈分析の視点〉を基に読み深めた内容を分かりやすく発表することができている。（発表・観察） ・他の生徒の発表を参考に，「走れメロス」を読み直すことができている。（観察・「学びの足跡」）
6 7	パフォーマンス課題に挑戦する ・この単元で学んだことを生かしながら，図書館便りの原稿（「読書に苦手意識を持つあなたへー私が提案する文学作品を読み深めるポイントー」）を書く。 ・互いのパフォーマンス課題を評価し合う。	知 思 態	○ ○ ○	・「走れメロス」で学んだ語句や表現の使い方を参考に，読み手のことを意識して書くことができている。（パフォーマンス課題） ・「走れメロス」の学習で理解したことを自分の知識・経験と結び付け，図書館便りの原稿を書くことができている。（パフォーマンス課題） ・「走れメロス」の魅力や，その魅力を支える表現・構成の良さを読み取った経験を振り返り，日頃の読書への生かし方を伝えようとしている。（パフォーマンス課題・観察・「学びの足跡」）

「重点」は，重点的に生徒の学習状況を見取る観点を示しており，観点の総称は以下の通り。

知識・技能…「知」，思考・判断・表現…「思」，主体的に学習に取り組む態度…「態」

重点としていない観点についても，生徒の学習状況の評価し，教師の指導改善や生徒の学習改善に生かす。

3 本単元と研究主題との関わり

(1) 生徒について

生徒 31 名（男子 16 名，女子 15 名）は，真面目な態度で授業に取り組み，学力を高めようと努力することができる。前期前半には，文学的文章「アイスプラネット」を通して，登場人物の設定に着目し，人物同士の関係や人物の考え方を読み取る力を高めることができた。また前期後半には，文学的文章「盆土産」を通して，文章に根拠を求めて分析しながら読み深めていく力を高めることができた。

国語科では，「確かで豊かな言葉の力」を育成することを目指している。目の前の文章を正しく読み取り，そこに根拠を求める「確かさ」。そこに自分の経験や知識をつなげ，登場人物や語り手，作品，作者，さらには自分自身と対話し，感じたことを言葉にしていける「豊かさ」。それらが一体のものとなり，本当の意味で読む力がついたと言えるであろう。

これまで行った二つの単元では，協働的に読み深めていくことで，「確かで豊かな言葉の力」を高めていった。したがって本単元では，これまでよりも個人で読み深めていく時間を大切にし，生徒一人一人にとって「確かで豊かな読む力」を高めることができる単元を展開したいと考える。

(2) 単元について

「走れメロス」は，1956 年に教科書に掲載されて以来，中学校 2 年生の教材として半世紀以上読まれ続けている作品である。主人公の「メロス」は，竹馬の友「セリヌンティウス」との約束を守り，人を信じるのできなかった王「ディオニス」に友情の尊さを命がけで示す。

この作品の特徴は，「メロス」の葛藤や心情変化の過程が詳述されているところである。特に，「メロス」が力尽きそうになる場面では，巧みな表現技法を用いてその心情や変化が描かれる。一方，「ディオニス」や「セリヌンティウス」については，詳しくは描かれていないのも特徴である。したがって読者としては，冒頭部分と終末部分の「ディオニス」と「セリヌンティウス」

の人物像の変化に着目し、限られた表現や描写を手掛かりに、その葛藤や心情変化を考えることができる。

また近年、文学研究の場では、「走れメロス」の〈語り手〉を問題視する指摘がある。冒頭部分では、「メロスは激怒した。」と三人称で客観的に語り始めるものの、話が進むにしたがって、まるで「メロス」に移り移ったかのように「私は、今宵、殺される。」と一人称で語られるようになり、やがて終末部分では、再び三人称の語りに戻るという独特な手法がとられているからである。したがって、心情変化の過程で走る目的をすり替えていく「メロス」に同化していく〈語り手〉について、以下のように批判されている。

- ・「走れメロス」の授業においては、メロスを批評しない〈語り手〉を問題化せざるを得ない。
（丸山義昭／2013）
- ・この〈迂闊な語り手〉は今、語った自身の言葉が何ものかを問わず、「心」を見失っている。
（略）「走れメロス」の〈語り手〉は英雄であるはずの人物を人並みとして語っているのである。
（田中実／2015）

語りの破綻を理由に、文学教材としては評価しがたいというのである。しかし、その〈語り手〉の迂闊さや不自然さが作者の意図であったとしたら、どうであろうか。そして、中学生はその〈語り手〉や作者をどのように評価するのであろうか。前の単元で、「盆土産」の〈語り手〉についてこだわり、分析した生徒たちと、「走れメロス」の〈語り手〉についても読み取り、文学教育の場・実践の場から、教室で「走れメロス」を読む意義についても再考したい。

(3) 「深い学び」の実現に向けた指導の工夫について

「読むこと」には、〈解釈〉的な読み方と〈分析〉的な読み方があり、使いこなせるようになるべきだと主張した鶴田清司の理論を基に、「盆土産」の単元から〈解釈〉→〈分析〉→〈解釈〉というプロセスを大切にしている。本単元においても、「文学的文章を自由に解釈させ、内容の面白さに浸る場面」、「文学的文章の表現に着目し、分析する場面」、「文学的文章を自分自身の生活や経験と結び付けて味わう場面」を設けることで、「読むこと」の資質・能力を高めることができる深い学びを実現したい。

ア 「文学的文章を自由に解釈させ、内容の面白さに浸る場面」について

初読後の感想の中で「走れメロス」と出会い、どこに魅力や面白さを感じたかを書かせる。また、初読では分からなかったところや、この後考えてみたいところを大切にさせる。

イ 「文学的文章の表現に着目し、分析する場面」について

先述の鶴田は、文学的文章で教えるべき「読みの技術」として次の五つを挙げている。

- 構成を捉える技術 → 題名の意味・設定・全体構成を明らかにする。
- 表現を捉える技術 → 描写や表記、表現技法の効果を明らかにする。
- 視点を捉える技術 → 作者と語り手、一人称と三人称等の効果を明らかにする。
- 人物を捉える技術 → 人物の描写から人物の心情や変化を明らかにする。
- 文体を捉える技術 → 語り口や語尾、敬体と常体等の効果を明らかにする。

「盆土産」の単元では、生徒が初読後の感想で綴った課題意識を「読みの技術」と関連付け、〈分析の視点〉を教師が準備した。そして、各班で考えてみたい〈分析の視点〉を選択し、協働的に読み深めていった。本単元では、個人で読み深める時間を大切にするため、自分の問いや課題意識を基に、自分で〈分析の視点〉を考えさせることにする。その際、「盆土産」での単元での学びを生かすよう助言したい。

ウ 「文学的文章を自分自身の生活や経験と結び付けて味わう場面」について

イ 「文学的文章の表現に着目し、分析する場面」において、〈分析の視点〉を基に個人で読み深めた内容について、全体で共有する。その後、「走れメロス」の魅力をどこに感じたかについて感想を述べ合う。その際、初読の感想からの変化やそのきっかけとなった〈分析の視点〉から読み取った内容についても考えさせることで、読み深める手立てについて自覚できるようにさせたい。

4 本時の指導（4／6時間）

(1) 主題 〈分析の視点〉を基に、「走れメロス」を読み深めよう。

(2) ねらい

○「走れメロス」の魅力をさらに味わうために、〈分析の視点〉から読み取った内容を分かりやすく伝え合うことができる。

(3) 展開

学習活動（形態）	時間	○教師の働きかけ ・予想される生徒の反応	○指導の工夫 ◎評価（方法）
1 前時までの学習内容を振り返る。 （一斉）	1	○これまでの学習を振り返りましょう。	○テレビに単元の流れを示し、視覚的に復習させる。
2 学習課題をつかむ。 （一斉）	1	「走れメロス」の魅力をさらに味わうためには、どうすれば良いか？	
3 〈分析の視点〉を基に、「走れメロス」を読み直す。 (1) 〈分析の視点〉を基に、読み深めた内容を紹介し合う。 （小集団）	43 (10)	○班内で〈分析の視点〉を基にした自分の読みを紹介し合おう。 ・王城～往路～復路～王城という構成になっているが、復路に多くのページ数が割かれ、人物や情景の描写も多い。→復路が山場だと強調する効果がある。〈構成〉 ・擬人法や直喩は、「メロス」が悩む場面に多く使われていた。→「メロス」の心情を理解する手掛かりになっている。〈表現〉	○生活班で発表させることで、自分以外の〈分析の視点〉やそれを基にした読みに触れさせる。 ○班内で、読み深めに役立った発表や、印象に残った発表を選ばせておく。
(2) 読み深めに役立った発表を共有する。 （全体）	(33)	○全体で〈分析の視点〉を基にした自分の読みを紹介し合おう。 ・題名は、「メロス」でも「メロスは走る」でもなく「走れメロス」。→読者が「メロス」を応援したくなるような題名になっている。〈構成〉 ・最後の場面で「セリヌンティウス」も「ディオニス」も、似たせりふを繰り返している。→心情の変化を強調する効果がある。〈表現〉 ・語り手が三人称や一人称になっている。→読者を「メロス」と伴走しているような臨場感を与えている。〈視点〉 ・復路で濁流を泳ぎきったあたりから「メロス」の後ろ向きな発言が多くなる。→「メロス」の人間らしさを強調している。〈人物〉 ・前半、「メロス」のせりふの中で敬体と常体が混じる場面がある。→怒りと冷静さを行き来する「メロス」の人間らしさを表現している。〈文体〉	○班内で選ばれた生徒を全体で発表させる。その際、選んだ理由について班員から説明させる。 ○同じ〈分析の視点〉で読み直した生徒が分かるよう、ロイロノートで分類し、テレビに分類しておく。 ○最初は、生徒に発言をつないでいかせる。発言が滞った場合は、同じ〈分析の視点〉で考えた生徒に意見を求める。 ○「初読の感想からの変化」と「変化につながった〈分析の視点〉」を意識させる。 ◎〈分析の視点〉を基に読み深めた内容を分かりやすく発表することができている。（発表・観察）
5 本時の学びを振り返る。	5	○ 学びや気づきを発表させる。	○「走れメロス」の魅力を味わうために役立った読み深める方法を振り返らせる。
授業研究の視点		○生徒が自ら〈分析の視点〉を考えて「走れメロス」を読み直す学習は、文学作品を読み深める上で有効であったか。	

